

岐阜柳ヶ瀬にみる商店街における人々のネットワーク

岐阜大学 学生会員○石田大貴
岐阜大学 正会員 出村嘉史

1. はじめに

商店街はこれまで商業集合施設として周辺住民に必要とされ、人々の交流の拠点としての重要な役割を果たしてきた。しかし、これまでまちの活性化の手法として、大型店舗誘致や再開発事業などがとられてきたが、中心市街地において衰退現象が問題となっている。近年、NPO 法人、店主らが結束しまちづくり会社を立ち上げられるなど既存の資源を活かした動きが見られる。

商店街に関する既往研究は盛んにされている。曾根¹⁾らはミニ開発住宅地において、高齢者層と近隣住居者との交流拠点としての役割を果たしていることを明らかにしている。今里²⁾らは近隣商店街関係者の将来意向と交流実態の関係性を明らかにし、商業機能と人間関係を継承する役割として元店主の重要性について述べている。既に筆者らまちづくりを持続的に行なっていく基盤としての人々のつながりに着目した³⁾。既往研究では商店街が持つ人間関係に関して着目されており、本研究はその延長に位置づけられる。

本研究で全国有数の商店街として発展してきた岐阜市柳ヶ瀬を対象とし、新規出店者と既存コミュニティのつながりの構造を明らかにすることを目的とする。

2. 研究手法及び手順

本研究では、社会ネットワーク分析(以降 SNA)によるコミュニティ可視化の手法を用いる。SNA とは、社会的行為者間の相互行為の研究に基づく構造主義的アプローチのことを表す。本研究では SNA の中で取り扱われるアフィリエーションネットワークに着目する。アフィリエーションネットワークは個人と所属の関係性に着目した概念であり、所属のネットワークは社会について多くのことを表しているとされている。

また、可視化の手法として、近年、我が国では Pajek, UCINET などのソフトウェアを用いて、計量的かつ視覚的にネットワークの分析が行われるようになってきていることから、UCINET を用いることとした。本研究の手順を次に示す。

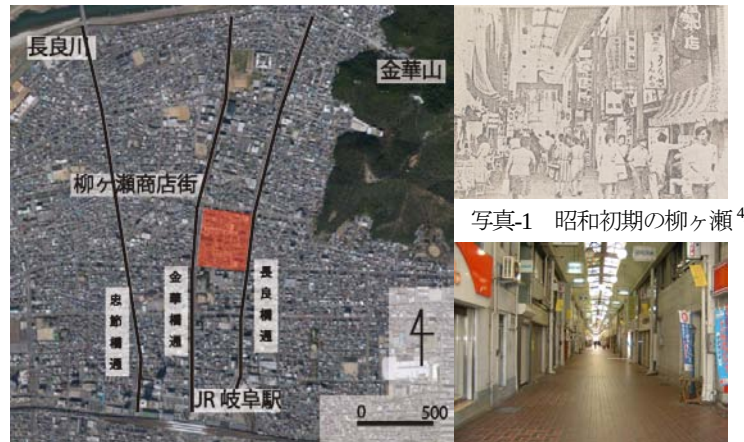


図-1 研究対象地域

写真-2 近況の柳ヶ瀬

- 1) ヒアリング対象を選定し、ヒアリング調査を行い、その結果を基にソシオマトリックスを作成する。
- 2) 人と組織(人と人)におけるマトリックスを作成、そのデータを用いて NetDraw により Network 図を作成する。
- 3) Network 図作成後、構造の特徴を明確にするため、配置の整理を行う。

3. 対象地概要

岐阜柳ヶ瀬商店街は JR 岐阜駅より 700m ほど北上したエリアに約 9ha に広がる 7 つの商店街振興組合と 1 つの発展会の連合体で構成されている (図-1)。

戦後以降岐阜駅周辺問屋街(既製服製造、卸売業)が全国有数のアパレル市場に発展した影響を受け、全国的にも有名な歓楽街、商店街へと発展してきた(写真-1⁴⁾)。昭和 50 年以降、長崎屋、パルコ、高島屋など多くの大型店舗が誘致されるなど、周辺の商店は集客などの恩恵を受けてきた。集客増加による一時的な売上げ増加など効果が見られたものの、持続性はなく空き店舗は増加し、柳ヶ瀬にあった大型店舗も高島屋のみとなっている(写真-2)。

柳ヶ瀬における近年の新たな試みとして、ゆるキャラを中心とした PR 活動、空きビル創業支援モデルとして「やながせ倉庫」などがあり、柳ヶ瀬内に新たな出店者が入り始めている。

4. 柳ヶ瀬におけるネットワーク構造

(1) 視点の整理

本研究では、近年柳ヶ瀬に見られる空きビル創業支援モデルの事例、新規出店者の増加などこれまで見られなかった柳ヶ瀬内の動きについて調査に着目し、柳ヶ瀬内

における新規出店者及び関連した既存商店主においてヒアリング調査を実施した。その際の視点は1)柳ヶ瀬全体で増加し始めた新規出店者と既存商店との関わり、2)やながせ倉庫に見られる新規出店者（若手クリエイター）が増加した理由、を把握することであり、新たに育ちつつある人相互の関係を構造として捉えることをねらいとする。

(2)新規出店者と既存商店の関わり

柳ヶ瀬内に新規出店した商店を対象に所属コミュニティについて調査を実施し、調査結果を基にネットワーク図を作成した（図-2）。その結果の特徴について以下に示す。

- 1) 各商店は出店場所における振興組合に所属している。
- 2) 既存商店者を中心とした新規出店者及び柳ヶ瀬には出店していない若手クリエイターのコミュニティの存在（ハローやながせ）。
- 3) ハローやながせ代表者は柳ヶ瀬商店街振興組合連合会副理事長を務めているなど柳ヶ瀬内に精通している。また、柳ヶ瀬内にだけではなく、外とのつながりも多い。

以上の構成をヒアリング時における実状を補足していく。新規出店者は振興組合には所属しているものの既存商店との関わりは少ない。しかしながら、柳ヶ瀬内に精通している既存商店者（図中青点線）を中心とするハローやながせと関わることにより、既存商店との関わりを持っていることがわかる。このことは新規出店者だけではなく、柳ヶ瀬外部者（図中赤点線）においてもあてはまることである。つまり、新規出店者は既存コミュニティに関わることが少ないという問題点が見られるが、その対策として新たにハローやながせというコミュニティを設立することで新規出店者を既存商店者と関わらせる仕組みがある。現在新規出店者に対し、ヒアリングを実施している。今後も引き続き実施していく予定である。

(3)新規出店者の増加の理由

新規出店者との関わりが把握されたやながせ倉庫オーナーに対してヒアリング調査を行った結果を基に、やながせ倉庫のネットワークの変化について次のように把握した。

30年前以前は雑居ビルとしての機能を果たしていたが、平成に入ると、その循環はなくなり、既存商店が維

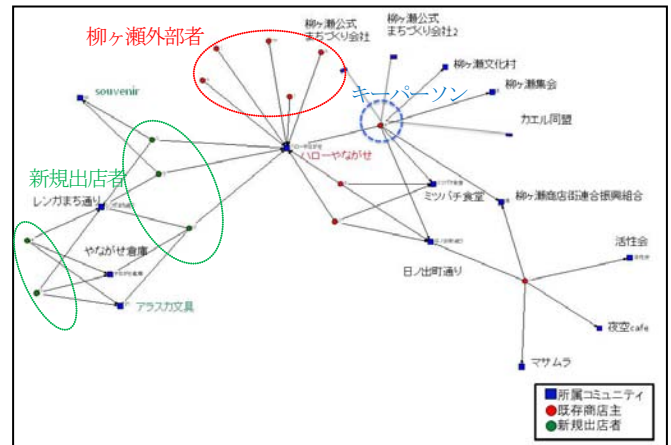


図-2 新規出店者を対象とした affiliation network（作成中）

持できなくなり、ビルの新たな活用法を模索し始める。若手出店者に低家賃で貸し出すビルの新たな活用法『やながせ倉庫』が始まると、名古屋在住者中心に出店者が増え始め、現在では24店舗、また『やながせ倉庫』出身者が柳ヶ瀬内で出店し始める事例ができています。

柳ヶ瀬全体において、出店者の高齢化、後継者問題により、循環の通減していったことが考えられる。やながせ倉庫の事例は柳ヶ瀬内に元々存在したビルを新たな活用法により、新規出店者を入りやすくし、その人のつながりが絶えない好循環を生み出す可能性がある。

5. おわりに

本研究では、調査を行った結果、近年柳ヶ瀬における新規出店者の増加のきっかけは、名古屋クリエイターズマーケット関係者との関わるによりビルオーナーのビル活用法の変更によるものと把握した。また、柳ヶ瀬内の新規出店者と既存商店との関わりについて中心的なコミュニティとしてハローやながせが把握された。今後引き続き調査を実施し、ハローやながせ構成員におけるコミュニティ構造の可視化を実施していく。

参考文献

- 1) 曽根陽子・香山愛理: 高齢者層の交流の場としての近隣型小売商店の役割, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 74 No. 635, pp88-89, (2009)
- 2) 今井美里・後藤春彦・佐藤宏亮: 近隣商店街の機能更新に伴う生活像の変容-住宅化が進む商店街の交流機能に着目して-, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 76 No. 670, pp2317-2325 (2011)
- 3) Ishida, H., Demura, Y., Takagi, A. and Kurauchi, F., "Personal Networks as the Foundation for the Sustainable Neighborhood Regeneration: Two Types of Communities in Iwamura", paper presented at the Ninth Workshop on Social Capital and Development Trends in the Swedish and Japanese Countryside, 24th-25th, May, 2012, Österlen, Sweden
- 4) 岐阜日日新聞, 「柳ヶ瀬 第6部」, 1975. 8. 29